

特256

329

郡別旅行案内

(千葉縣)

安

房

郡

1714



始





宮音

郡別旅行案内
千葉縣

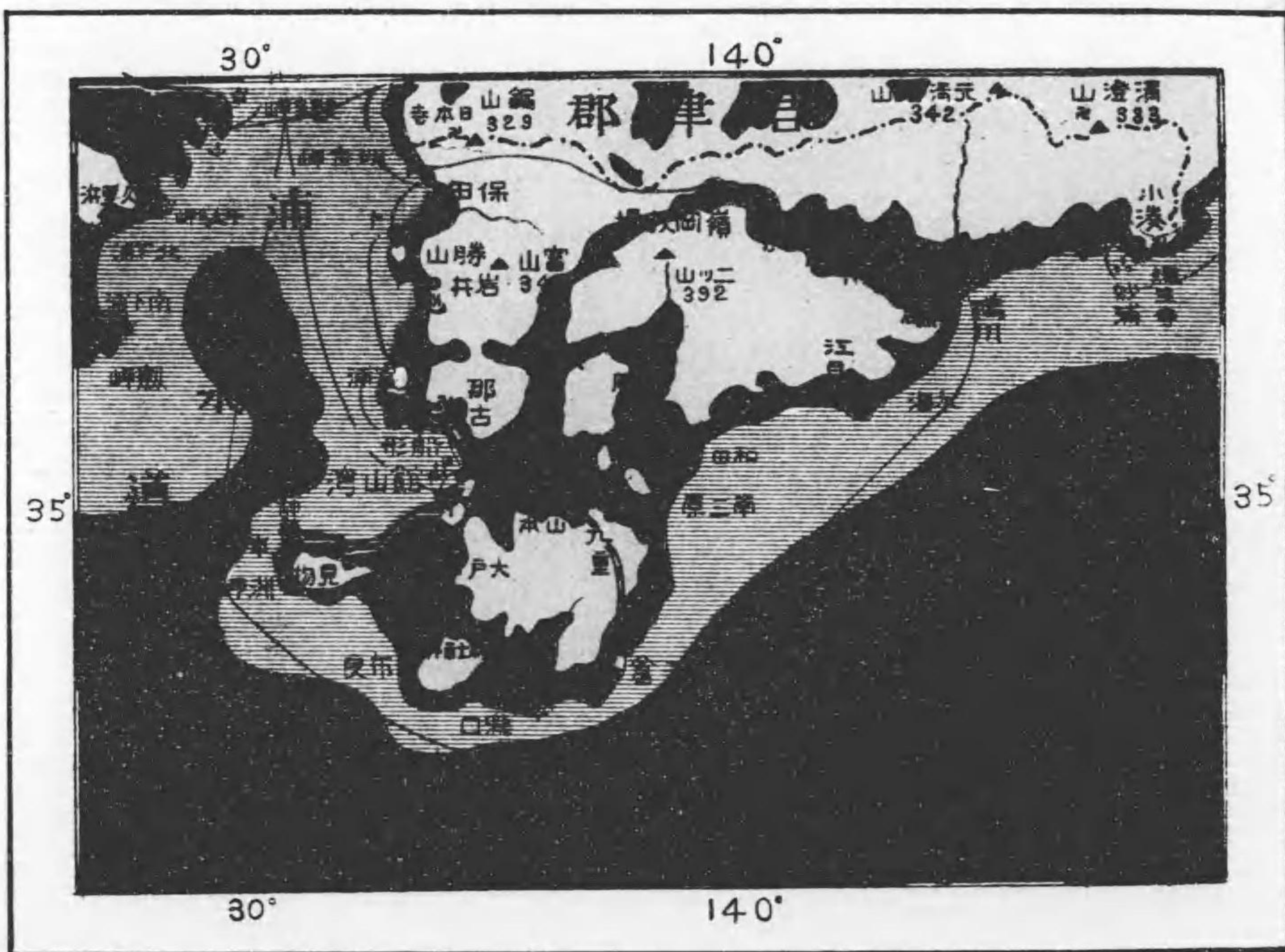
松著

安房郡

郡別旅行案内社發行



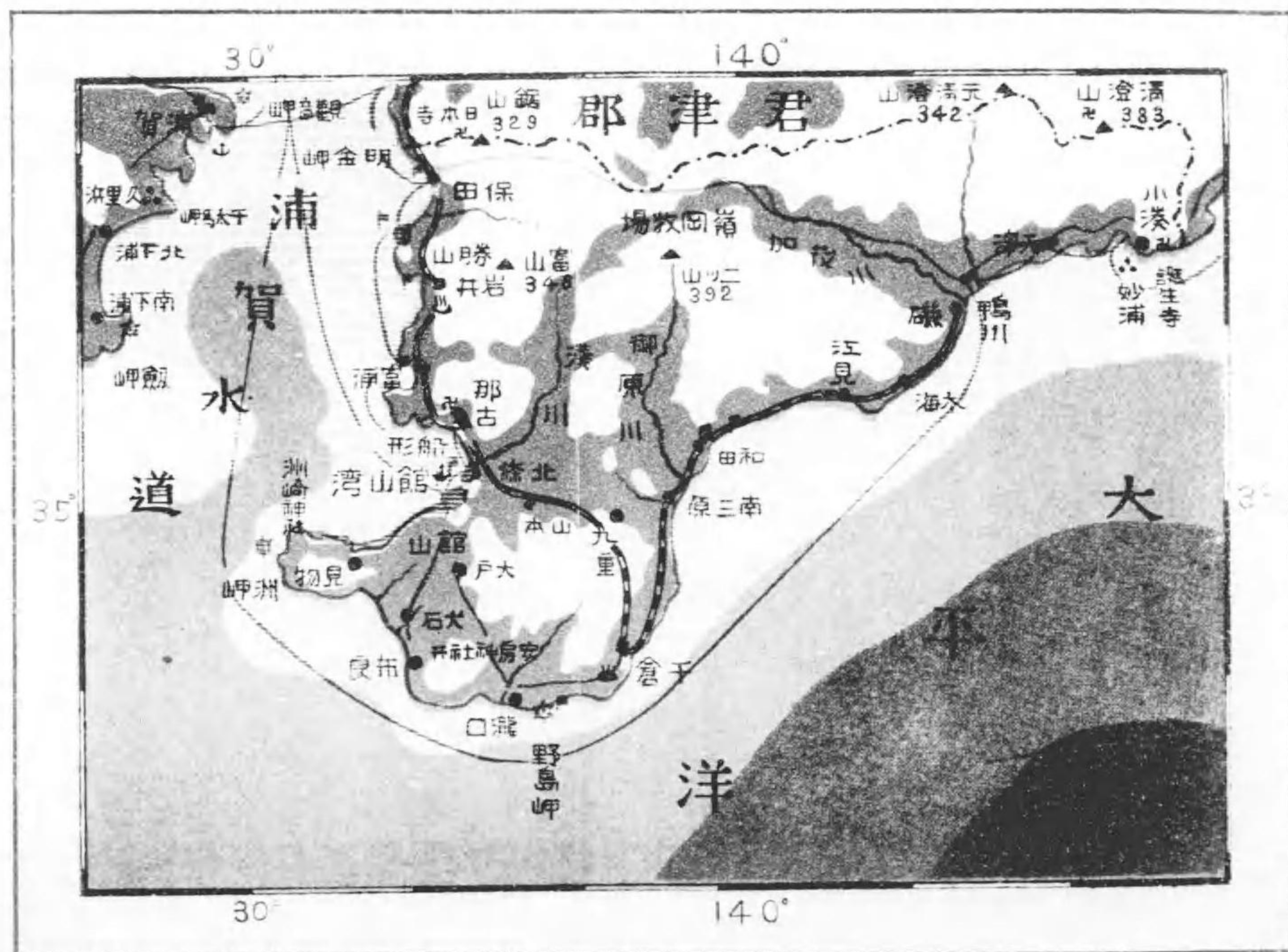
安房郡



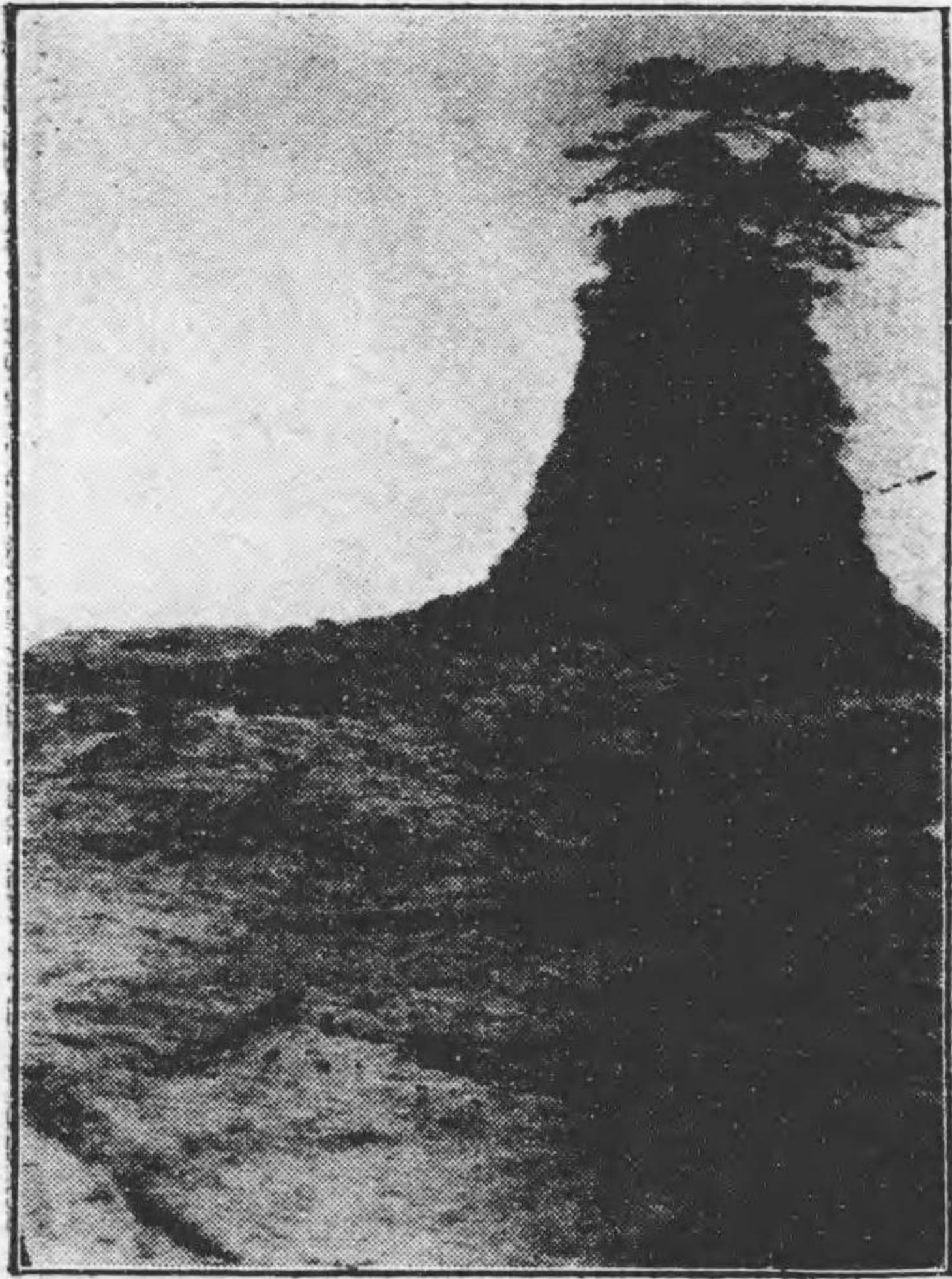
1:500,000

露光量違いの為重複撮影

郡房安



1:500,000

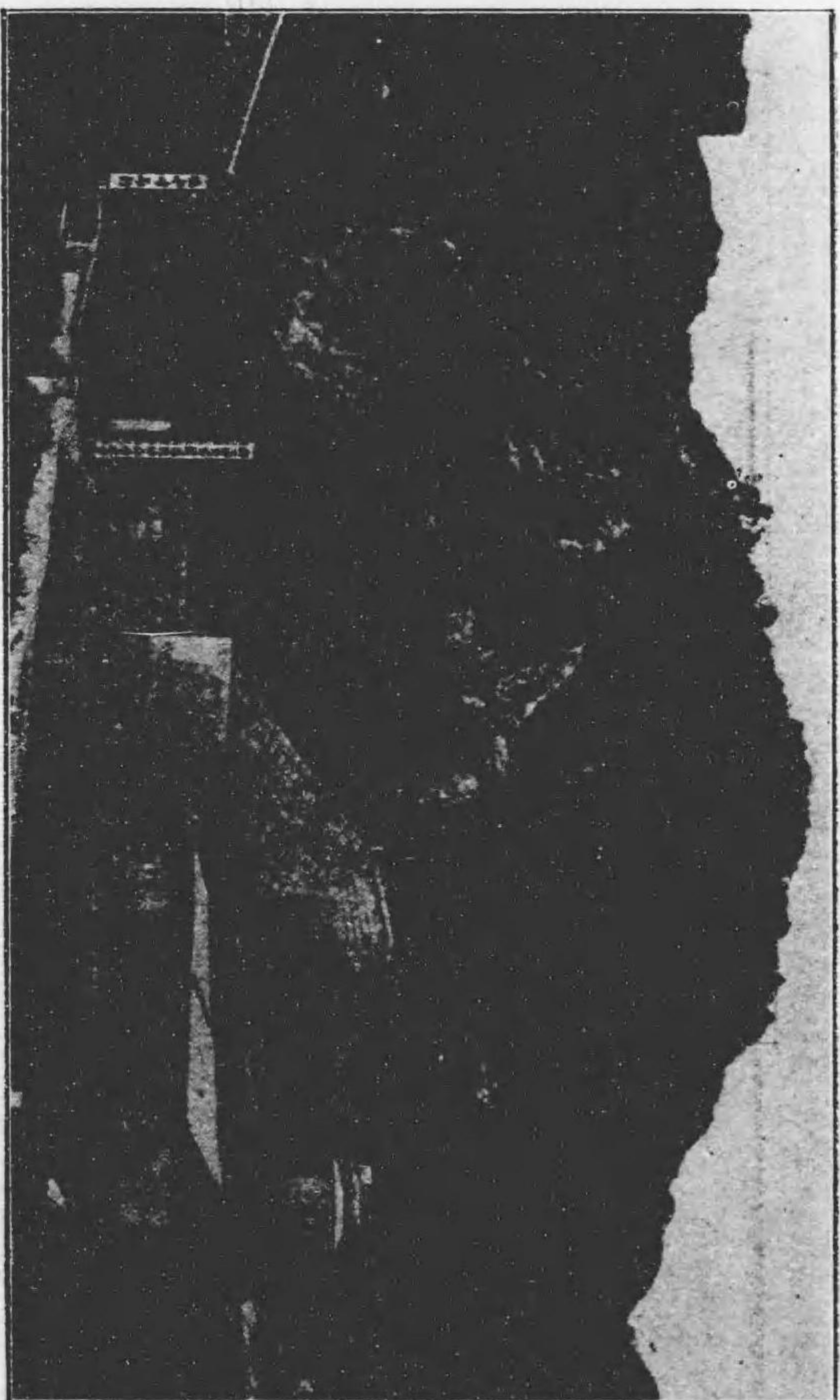


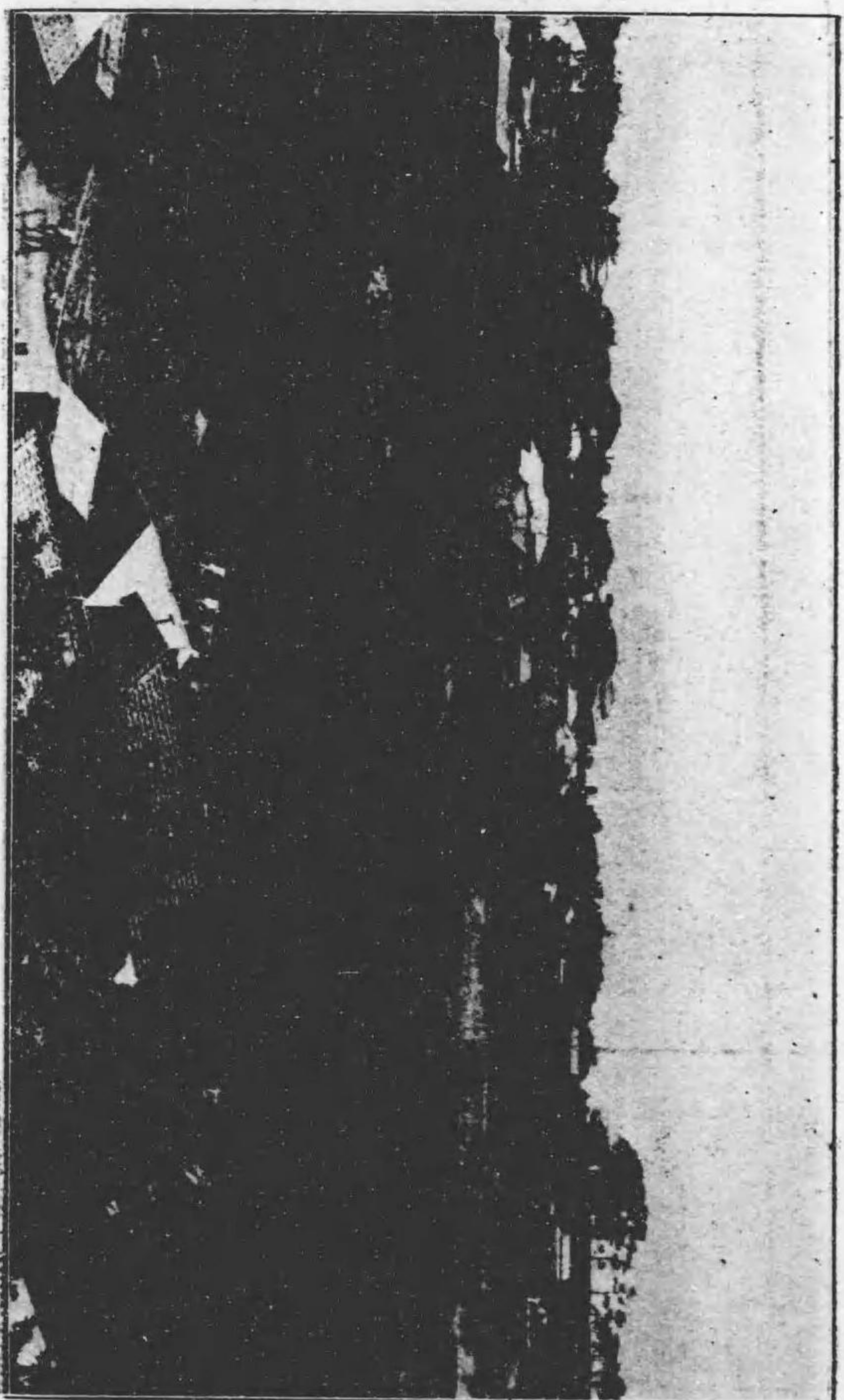
小湊の浦

勝山町海岸

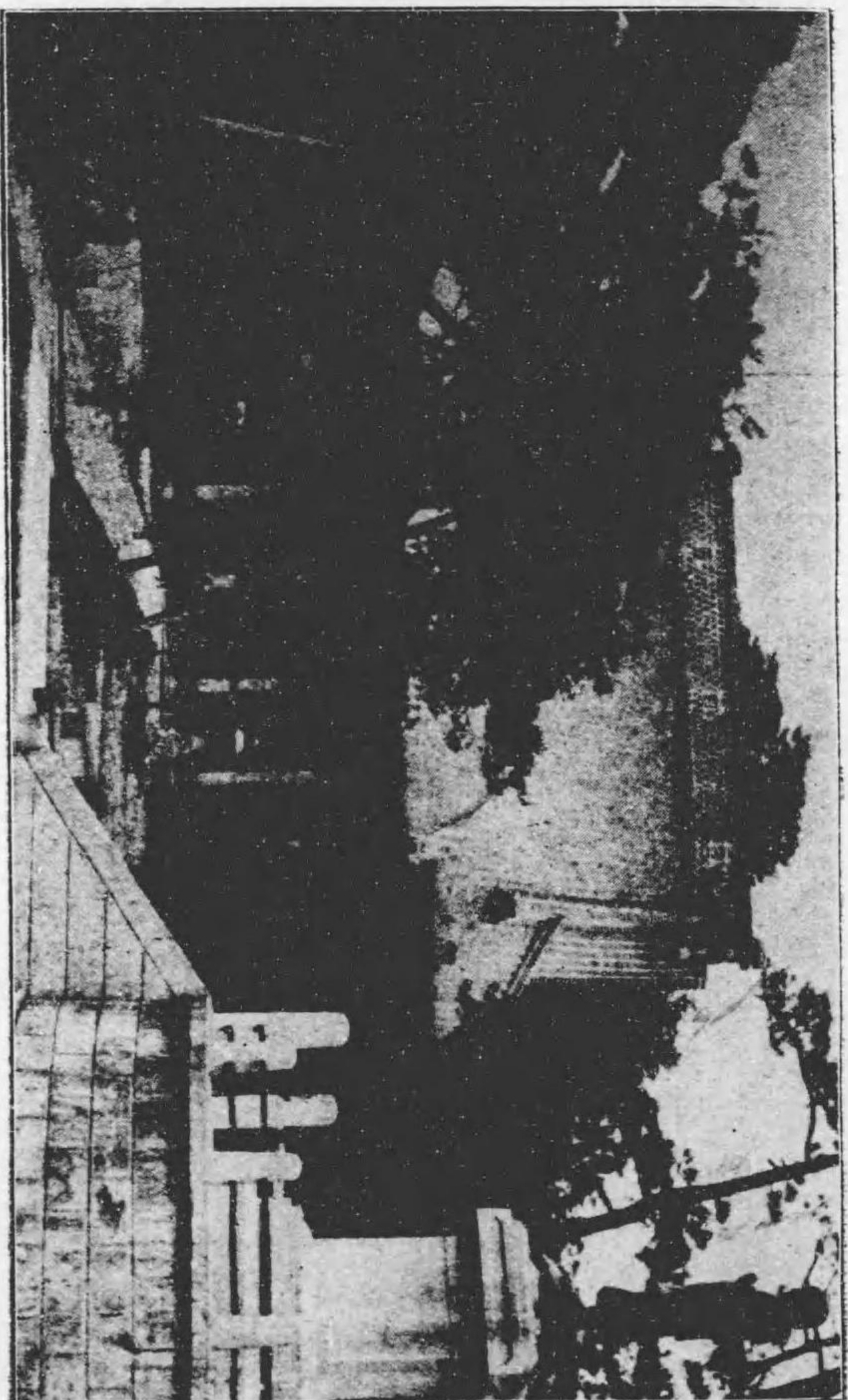


(保田町) 碓氷山登山口





岸海町古那



(村湊) 堂本寺生誕

郡別旅行案内

宮

音

松著

房 郡

總 記



東京灣を圍む二半島、その一は房總半島なることは小學地理を修めたもの、誰しも知る所。その房總半島の南部を占むる安房國全部が即ち安房郡、所謂房州の

地である。

東と南は太平洋の波浪に洗はれ、西に浦賀水道あり。北は上總の君津、夷隅兩

郡に接して居る。面積五四〇方軒、人口一六二、〇七六を有する。

【地勢】 灣内には丘陵性山脈數條、何れも東西に連互して居るが四〇〇米に及ぶものは一つもなく、總じて鈍栗の背比べと云つた様な山が起伏して居る。太古は一帶の臺地であつたものが雨水の浸蝕を受けて峡谷を作つたと云ふことである。比較的高度の著しいものを擧げると、

- 二 つ 山 三九二^米 清 澄 山 三八三^米
 - 嶺 岡 山 三六〇 富 山 三四八
 - 元 清 澄 山 三四三 伊 豫 嶽 三三〇
 - 鋸 山 三二九
- 等である。

河流の如きも殆ど見るべきは無く、強いて數ふれば西海岸に 平久里川(湊川) 南海岸に 長尾川、東海岸に 瀬戸川、丸山川、曾呂川、加茂川、松崎川等の細流があるのみ。

半島の大部分が丘陵に占められ平地は眞に尠い。唯那古北條間と加茂川流域に少許のものがある。

海岸は小屈曲が非常に多い、そして丘陵が迫つて居るので、その延長とも見るべき岩礁到る處の水面に現はれ船着に不便の代りには佳景が多い。砂濱をなして居るのは洲崎から布良に到る平砂浦(鬼ヶ浦)と千倉から南三原に到る海岸位のものである。館山灣は洲崎と大房崎とに抱かれた水面で鏡ヶ浦とも云ひ景色のよいので知られ、曩に大毎東日兩新聞で募集した日本百景中海岸の都で撰に入つたの

でも凡景でないことが判る然し自分が見て最も良い感じのした海岸は安房神社背後の丘より俯瞰した平砂浦であつた。

【氣象】房州の地氣候が良いことは夙に知らるゝ處で、殊に東京から近いのと汽車、自動車等の交通が漸く整つて來たので夏は避暑や海水浴に、冬は避寒に出掛ける人が大層多くなつて來た。尙保田から館山に到る海岸には別荘が可成りあり貸地や賣地なども多い。試に東京と房州の南端布良との氣温を比較すると左の通りになり、一目その氣候の良いことがわかる。

	最高氣温	最低氣温	寒暑の差
東京	三六、一 ^度	零下五、一 ^度	四一、二 ^度
布良	三二、一	〃 一、一	三三、二

【産物と名物】住民の主たる生業は漁と農である、これは沿海地方の多くがそうであるが、東海岸は殊に漁獲が多い。鰻、鯉、鯛、鯖、鮪、秋刀魚、鱒、旗魚、さざえ、あわび、等が主に採れる。西海岸の岩井、富浦の近傍は枇杷の産が多い北部の嶺岡地方は古來牧馬、牧牛が盛に行はれて居り、ミルクやキャラメル等の副産物も可成り出る。鋸山からは建築材として知られた房州石が切り出されて居る。

名物、鋸山の柚子羊羹、保田の貝細工、岩井・富浦の枇杷、米桃、那古・船形の枇杷酒、神戸村のメロン、西瓜、和田の蠶豆、等であるが尙海岸地方では何處でもピン／＼した魚が喰へるから食道樂の人にも一向不便を感せぬであらう。

【交通】

「汽車」兩國橋驛を發した汽車は東京灣岸を縫ふて南下し、房總國境なる鋸山下の隧道をくぐり、保田…安房勝山…岩井…富浦…那古船形の諸驛を経て安房北條に行く。それから左折九重を経て千倉に到り、東海岸を北へ南三原、和田浦、江見太海を過ぎて安房鴨川に達して居るが更に天津、小湊を経て房總線の終點興津迄開通するも近い内である。

「乗合自動車」は郡内主要地點には大抵之が設けられてあるが左のものは特に著しい。

保田鴨川間 保田…金束…三園…西川…坂東…鴨川（全區間一圓七〇錢、現在

一日五往復）

萬歳自動車經營

岩井平郡間（全區間五〇錢、現在一日三往復）

那古横峯間 驛前…那古觀音下…藤ノ木…正木…横峯（全區間七五錢、現在一

日二往復）

房州自動車經營

北條洲崎間 驛前…汐止橋…楠見…柏崎…宮城…大賀…塩見…見物…名郷浦…

波佐間…坂田…洲崎（全區間一圓三〇錢、現在一日七往復）

安房合同自動車經營

北條長尾間 驛前…上眞倉…上藤原…洲ノ宮…犬石…安房神社前…布良…根本

…砂取…長尾（全區間一圓三〇錢、布良迄七往復、長尾迄四往復）

安房合同自動車經營

北條白濱間 驛前…下眞倉…大戸…長田…神餘上…神餘…長尾…横渚…青木…

白濱（全區間一圓二〇錢、一日七往復）

安房合同自動車經營

千倉乙濱間 驛前…千倉温泉…忽戸…平磯…大川…七浦…乙濱（全區間八〇錢
一日七往復）

安房合同自動車經營

鴨川興津間 鴨川驛前…東條…濱荻…天津…小湊…興津（全區間一圓五〇錢

三日月自動車經營

鴨川小湊間 （全區間一圓）

萬歳自動車經營

「汽船」東京靈岸島から横濱、横須賀、浦賀を經由上總の金谷に行き房州に入りて
保田、勝山、富浦、船形、那古、北條等に寄港、館山に到る東京灣汽船會社の
内房航路（以上は一番船の寄港地で外に二番船と云ふのが靈岸島から横須賀、
浦賀、北條、館山の四港に寄泊するのがある。靈岸島館山間一圓五九錢何れも
相當時間がかかる）と、靈岸島から鴨川、天津、小湊を経て勝浦（靈岸島勝浦

間一圓一八錢）に行く外房航路とがある。

外に七月初旬から九月初旬まで靈岸島から北條館山間及び靈岸島保田間に直通
の遊覽船がある。全汽船會社の優秀船橘丸、櫻丸（各四〇〇噸）が之に就航して
居る。賃前者二等三圓五〇錢、三等一圓六五錢。後者二等三圓、三等一圓三〇
錢。

【町村】安房郡には十町、三十三村がある参考に町村別人口を掲げると左の様に
なる。

保田町 五、六三七（鋸山登山口、海水浴場）

勝山町 五、〇五一（勝山公園、海水浴場）

那古町 四、三三五（那古觀音、海水浴場）

船形町	六、二〇一	(船形観音、海水浴場)
北條町	八、九一一	(郡の名邑、海水浴場)
館山町	八、〇四六	(館山港、海水浴場)
千倉町	七、二三三	(千倉鑛泉、海水浴場)
和田町	三、六三二	(海水浴場)
鴨川町	六、九九七	(海水浴場)
天津町	六、六三八	(清澄山、海水浴場)
長尾村	三、三二四	(兜岩)
神戸村	三、三八四	(安房神社、平砂浦)
富崎村	二、八〇九	(布良崎)

西岬村	四、四七〇	(洲ノ崎、洲ノ崎神社)
豊房村	四、〇一二	
館野村	二、六四〇	
九重村	二、三〇二	
稻都村	一、六〇二	
八束村	一、八九三	
富浦村	五、二九四	(海水浴場)
岩井村	四、五五九	(富山登山口、海水浴場)
佐久間村	二、四六八	

平郡村	三、五一四
瀧田村	二、二四七
國府村	一、八六九
白濱村	五、二〇七
七浦村	二、九六七
健田村	二、九五六
豐田村	二、七八一
丸村	三、七四一
千歲村	三、六七一
北三原村	二、一五六

(野島崎、海水浴場)

(石童寺)

(海水浴地)

南三原村	二、六〇六
江見村	二、六四八
太海村	二、四四八
曾呂付	二、五九七
大山村	二、六三九
吉尾村	三、一三七
主基村	二、五八三
田原村	二、四七二
西條村	一、八五二
東條村	三、五八一

(海水浴地)

(海水浴地)

(仁右衛門島)

(嶺岡牧場)

(鏡忍寺)

湊 村 二、九六六 (誕生寺、妙ノ浦)

各 誌

兩國橋發安房鴨川行の列車が總房國境鋸山麓の隧道を過ぎると、程なく房州の入口

【保田町】 に着する。北に鋸山一帯の丘陵を負ひ、西に太平洋を控え、三浦半島指呼の裡にあり、更に晴天の日は伊豆半島や大島の青螺洋上に浮びて風光明麗の地である。殊に海岸は遠淺で水清く波穏かであるので海水浴に好適の地、夏季は數ヶ所に脱衣場が設けられ浴客が多數入込む。(驛より四丁)

保田驛前から東海岸鴨川に行く乗合自動車が出る。(交通の部参照) 大山、吉尾、主基、

田原、の諸村や有名な嶺岡牧場へ行くに便利である。

保田驛から

【鋸 山】 へ行くには驛前の道路を西に海岸に出で、右折縣道を北へ十七丁山麓に達する。その途中海水浴場や縣立農事試験場などがある。山麓の掛茶屋の所で縣道と別れ右折すると既に登山道で追々勾配が急になり、所謂房州石の積出場の側を経て山腹乾坤山

【日本寺】 に達する。聖武帝の勅願で僧行基の開基、曹洞宗の名刹である。寺背に突兀たる怪岩の聳立するがあり、寺閣壯麗では無いが之却て幽寂の感を與へしむる。寺前向て左に沙羅雙樹の名木、右に頼朝公手植と稱せらるゝ大蘇鐵があり更に其右鐘樓がある、海中から出現したと云ふ傳説附のものである。本堂から右へ更に登ると無數の石佛がある。保田羅漢と稱し有名なもの、又石面に彫刻した大佛像がある。

高さ八丈五尺天明年間の作と稱せられて居る。この邊りから山勢は一層急となり迂餘曲折して山頂に到る。

【十州一覽臺】と稱する、展望開豁足下に金谷、保田の兩邑があり。北には鹿野九十九谷の重疊するあり、南は富山^{トミサン}其他の起伏するを望む。殊に壯快を覺えしむるは西方海面の眺望で、浦賀水道を隔つる三浦半島目前に展開し、右端に觀音埼燈臺あり、水道内を來往する大小の船舶點々として景趣を添へ、遠くは伊豆半島や大島や更に富士の靈峯雲烟模糊の裡に望み得て宛ら書圖の如しと云ひたい所である。側に茶亭がある、名物羅漢羊羹や繪葉書等を鬻いで居る。一覽臺の北方に陸地測量部の三角點が見ゆる、標高三二九米。

歸路は金谷に下るべきである。途中鳥渡峻嶒な尾根を過ぐる所危い感じのする

所もあるがその右脚は上總であり、左脚安房だなど、考へると嬉しくなる。下りは數百の石磴が設けられ忽ち山麓に着いて了ふが、その途中も眺めはよい。

以上保田より登山するを表參道と云ひ、金谷よりするを裏參道と稱するが、急げば上下三時間程で出来る。山中各所に房州石の切出し場がある、建築基礎材として東京地方で可成り使用するもの。

保田驛から南へ縣道を行く途中は佳景も少くない。吉濱邊りから勝山沖の浮島等を望んだ風色は亦格別である。吉濱に中谷山

【妙本寺】と云ふ名刹がある。(縣道を東に入る、保田驛より十五丁)本門宗の大本山で後醍醐帝の建武二年日郷上人(宰相阿闍梨)の開基になり、寺寶として嵯峨帝の御宸翰、立正大師筆の大曼荼羅を藏して居る、毎年舊曆七月二十日と團

体申込に對して觀覽を許して居る。

一八

【勝山町と浮島】 保田安房勝山間鐵路二哩、六分時。

東に富山トミサンの餘脈連互し、西に太平洋を控へて居る。海上五丁に浮島がありて茲も景色が優れてをる。景行帝東國行幸の折安房浮島に行宮を置かれしこと歴史に見え、この地がそれなりとの説があるが、亦一説に本島は數十尺の斷崖であり且つ面積僅かに二町步許、行宮の地としては受取り難い、思ふに全名異地ならんとして之を洲ノ宮に當嵌めた説もある。然し何れが眞かは茲に論評を控えたい。

【勝山公園】 は驛前にある、小丘ではあるが、樹林蒼鬱、殊に丘上の觀望は鋸山にも劣らぬ位ひだ。山腹に觀音堂があり、麓には妙典寺と云ふ古刹がある。勝山の北東下佐久間に

【田子臺】 と稱する丘地がめる。名歌『田子の浦のうちいで見れば眞白にぞ富士の高根に雪はふりつつ』に所謂田子の浦は駿河のそれに非ずして田子臺下の海、即ち勝山海岸を指稱するものであるとの説がある。蓋し歌聖山部赤人がこの地方の人であるからであらう。

【物見塚】 は町の南方の一地名である。頼朝の臣安西氏居館の地と稱せらるゝが今その址を止めず、徒に鋤鍬の耕耘に任せて居る。

【岩井村】 安房勝山岩井間鐵路一哩八分、六分時。

【富山】 へ登攀する人は岩井驛で下車するがよい。東へ十七丁山麓に達する。標高三四八米、八犬傳に伏姫栖居の地として名高い山、房州富士の稱があがる、富士の名を冠するには些か過ぎた様に感じられる。南北二峯に分れ、南峯に孝謙

一九

帝の御宇創建せられしと傳ふ觀音堂があり、僧行墓の作と稱せらるゝ觀音像を本尊として居る。北方に金比羅宮がある。

【高崎鑛泉】 驛の南西十一丁、驛から西へ縣道に出で左折、海岸に沿ふて行く。アルカリ性鹽類泉に屬する。

【富浦村と大房岬】 岩井富浦間鐵路三哩八、十分時。靈岸島出帆の内房航路船が横濱、横須賀、金谷に寄港して富浦に着する。靈岸島より八時間、横濱より五時間餘、百噸内外の汽船が就航して居る。

富浦も亦保田、勝山等と景色が似て居る。左方の大房岬長く海上に突出して太平洋の波浪を妨げ、水清く遠淺であるから海水浴地として好適である（驛より西四丁）北方南無谷（十五丁）は郡の特産枇杷の産地として著はれた所、村内に妙福

寺（十六丁）と云ふがある。建長年間僧日蓮が海路鎌倉に赴かんとせし際、この地に讀經を唱へて荒波を静めしと傳へらるゝ所。

【船形町と船形觀音】 富浦那古船形間鐵路一哩四、五分時

東部の那古町と相接して鏡ヶ浦に面する漁港である。この地で有名な船形觀音は驛の北西十丁、嶺堂山の中腹斷崖に堂宇を構えてあるので崖の觀音とも云ふて居る。慈覺大師の創基に係り僧行基の刻みたる十一面觀世音を安置して居る。（崖下に大福寺と云ふのがある）堂に上りて南方を俯瞰すれば船形市街崖下にあり、鏡ヶ浦の靜波、西岬の丘阜目前に展開し、灣内の汽船帆船の點綴するありて宛然書圖を展げる様である。曩に大毎日日兩新聞紙に發表せられた日本百景中に加へられたるをみても、その佳景が察せられる。寺内に續いて諏訪神社がある、建御

名方之命を祀つて居る。

【那古町と那古観音】 船形町の東に隣りて那古町がある。船形町と畧町勢を全じうして居るが此町の方が幾分活氣がある様に思はるゝ。那古観音は驛の東北五丁那古山の中腹に堂宇を建つ。僧行基の創建に係り補陀洛山那古寺と稱し、今新義眞言宗智山脈に屬して居る。堂塔の宏壯、寺域の清爽と相待ちて地方の名刹たるに愧ぬ。加之展望亦佳、鏡ヶ浦の絶景一眸裡に收むることが出来る。山上に二個の古墳がある。才媛和泉式部、小式部内侍の墓址と稱せられて居る。船形も那古も波穩かで海水浴に適する。

那古から南へ北條に到る間は鐵路も縣道も鏡ヶ浦東岸に沿ひて設けられ參差たる松林中を通じて居るので風光明眉である。平久里川を渡ると既に北條町に屬し

その大字八幡に

【鶴ヶ谷八幡】 と稱する祠がある。應神天皇を奉祀し郷社ではあるが、境内廣谿殊に毎年九月十四五兩日に執行する祭事は有名なもので國內の諸社から神輿、山車等集りなかくの盛典である。鶴ヶ谷八幡から十町で安房北條驛に到る。

【北條町館山町】 那古船形安房北條間鐵路二哩四、十一分。兩國橋安房北條間七九哩一、四時間二〇分。東京灣汽船内房航路一番船は靈岸島北條間九時間二〇分、二番船六時間四〇分。夏期遊覽船直航五時間

北條町は館山灣（鏡ヶ浦）東岸の名邑で南方汐入川を挟みて館山町に接続し、房州一の商業地である。又區裁判所、稅務署、警察署、中學校、高等女學校等此地に置かれ汽車汽船の便よきのみならず西岬、布良、白濱、千倉方面への乗合自

動車の起點でもあり、市街は可成り活況を呈して居る。

海水浴場は西六丁、景色絶佳の鏡ヶ浦の一部に設けられ浴客に對して遺憾なき様各種の設備が完ふされて居る、夏季は東京地方から多數の浴客を吸引し、何の旅宿も満員の盛況を呈する。町の南北共に砂汀長く續きその上を點綴する松林は散策する遊客に清々しい感を催さしむる。

館山公園は驛の南半里、小丘の上にあるので眺望佳、高の島沖の島目前にあり館山灣の鼻をなす大房岬が長く突出して風光を一層引立てて居る。園内に琴平社や燈臺がある。後丘の城山は八犬傳に名高き、里見氏の城址である。

北條へ來た人は自動車で洲ノ崎、布良、白濱等の何れかを見物するがよい。

北條から洲ノ崎行の自動車に乗ると沿道に鹽見の臥龍松、鉈切神社、洲ノ崎等見るべきもの

多く、且海岸に沿ふて行くので汀浦の勝れた所も多い。

【鹽見の臥龍松】 北條より二里、自動車鹽見下車一丁、鹽見寒山寺内に蜿々蟠居する雅松で、數十坪に枝を擴げて居る震災後衰頽して來たのは惜むべきである。

【鉈切神社】 北條より二里半、自動車鉈切神社前下車、稻田媛命を祀り、社寶に太古の獨木舟を藏して居る。

この獨木舟は幅一尺七寸三分、長さ七尺四寸、甚だ珍重すべきものゝ一で、後方船越神社側の洞窟と併せて種々の神話があるやうだ。

洲の崎は郡の南西端に突出した岬角で、三浦半島の劔崎を北西に望み、南西に大島の青螺、波に浮ぶ。更に快晴の折は伊豆の山脈水平線上に一を引き右端に富士の屹立せる様、まことに勝れたる景地である。一度強風到れば、怒濤忽ち起り

て脚下の岩礁を噛み壯絶を叫ばずば止まぬ。

岬端に白色圓形の燈臺がある閃紅白交色式百萬燭光で十八・五湮に光が到達する後方の御手洗山に縣社

【洲の崎神社】 がある。天比理乃咩命を祀る。景行帝東國行幸の際安房浮島に行宮を設けられしと云ふその浮島は此の附近であるとの説がある。

北條から布良又は長尾行の自動車に乗ると沿道に高野山、洲の宮神社、安房神社、平砂浦、小塚の大師、洲候所、兜岩等の名所がある。

【高野山】 北條驛より南二十五丁、快筭法印の開基、寺背の小丘に登ると鏡ヶ浦の静波目前にいたりて景色が佳い。

【洲の宮神社】 北條驛より南一里半、自動車洲の宮神社前下車、神戸村洲ノ宮に

ある。太玉命の后神を祀る縣社である。

【安房神社と平砂浦】 安房神社は北條驛より南二里半、自動車安房神社前下車、神戸村大神宮にある。太玉命と天比理咩命、天忍日命、天富命とを合祀する官幣大社である。境内廣谿鬱蒼たる巨樹に櫻を交へ、花時は森嚴にして美觀である、社背の丘陵は眺望甚だ佳い、相濱、布良等の村落山裾に並び洲の崎以東の連丘目前に横り、その間約一里半に亘る灣狀の砂汀岸打つ漣も洵に感じがよい。加之洲の崎の左に富嶽の雲表に聳ゆるを望むことが出来る。この砂汀は平砂浦又は鬼ヶ浦と稱し、外洋で幾分波は高いが水清麗で、海水浴には好適である。

安房神社の南、富崎村布良に洲候所及水難救濟會の救難所がある。

【兜 岩】 布良の南東長尾村根本の海岸にある小説己が罪にて人に知らるゝ所

野島崎方面へ行く人は北條から白濱行自動車によるが便である。

【野島崎】 白濱村青木の海岸から突出すること六丁、千葉縣の極南をなして居る。その尖端に白色八角型の燈臺が屹立して居る。野島崎燈臺又は白濱燈臺と稱し、水面上三六・一米、閃光白色一二〇萬燭光で、半徑一七哩に光が及んで居る外に霧信號の設けがありて音達距離五哩の由である。

燈臺下に嚴島神社があり、境内に頼朝の矢の石、銚子盃の池などがある。

白濱の東部乙濱から七浦、千倉を経て北條線の一驛千倉に到る縣道には乗合自動車に通ふて居る。

【乙濱】 は白濱村の大字で海岸に防波堤の設けあり。漁船の避難港として縣の經營に依て出來たものであるが、大正震災により地盤隆起し其効を減殺されし

と云ふ。

【七浦村】 乙濱千倉間に介在する村、映畫俳優早川雪洲の出身地。此處の白間津にも縣營の避難港がある。

【千倉町と千倉鑛泉】 兩國橋千倉間鐵路八五哩七、四時間四〇分

南東岸の名邑、市街地は千倉驛の南半里、自動車馬車の便がある。南朝夷と稱する所相當活氣を呈して居る様見受けらる。

千倉鑛泉は市街地から西に入つた所、鹽類泉で胃腸病、腺病、婦人病に特效があるそうだ。附近に新義真言宗智山脈の名刹圓藏院がある。尙夏時海水浴場が設けられ、町内の有志が浴客の爲めに相當便宜を計つて居る。

【南三原】 千倉から下り列車は千歲驛を経て此地に來る。千倉南三原間三哩五、一七分時

海岸へ五丁、此邊一帶に砂濱で海水浴に適して居る。農學校は六丁、附近の淺間山は眺望がよい。

縣道を南に進むこと十丁、安馬谷アンバヤツと云ふ村落があるが、その手前丸山川を遡ること一里半丸村に石堂寺と云ふがあり、そのの觀音堂は國寶に列せられて居る。尙其途中市場の村落から西に折れて行くと（驛より二十丁）工匠の祖を祀る郷社ナゴシヤ莫越山神社その側に日蓮寺がある。

【和田町】 南三原和田浦間鐵路二哩九、十一分時

和田町は半商半漁の地であるが、鐵道開通以來都人の來り遊ぶもの次第に多くなり、殊に砂浦には海水浴場（驛の東四丁）の設けがある、驛前の小丘は大久保遊園と稱し、眺望がよい。

【向西坊入定窟】 和田驛の北東二十丁、大字花園にある。向西坊俗名元助と呼び赤穂義士の一人片岡源吾衛門の忠僕であつたが、義士自刃後僧となり、此所に生を送りしと云ふ。側に黒瀧と云ふがある、落下五丈三尺。

【江見村】 和田浦江見間二哩九、十五分時

海水浴場は驛の南二丁、蛇山公園は東八丁にある、眺望佳。

【太海村】 江見太海間二哩八、十五分時

太海は海岸の風色まことに勝れた處で怪岩削立して水際に迫り、海中亦數多の岩礁露出して景趣を加ふ。其中稍大なるは波太島ナブトで

【仁右衛門島】 又は蓬ヶ島ともいふ、石橋山に敗れた頼朝が此地に逃れ島長仁右衛門の宅に身を隠したと云ふことで、今尙其子孫が島に住して居る。驛より五丁

渡船の便がある。尙海水浴場の設けもある。

【鴨川町】

現在北條線の終點で兩國橋驛より九九哩九を隔ち約六時間にて達する。太海安房鴨川間二哩一、九分時。鴨川から天津、小湊等を経由、房總線の終點興津に到る鐵道は目下工事中であるが、現在は乗合自動車(一時間)に依て此間を接続して居るから大して不便は感じない、又西へ房州の北境を通じて内海岸保田に行く自動車もある(交通の部参照)外に東京灣汽船の外房航路船が夜六時靈岸島出帆、翌朝五時半鴨川に着する。交通の便は比較的良い。

鴨川町は房州東海岸第一の繁榮地で、農水産物の集散が可成り行はれて居る。

海上には日向上人修行の地と稱せらる、辨天島、荒島、海瀨島、屏風島等の小島や多くの嶼礁點々として絶景をなし、海水浴場(驛より二丁)の設けありて避暑客を悦ばしむる。海岸に瀕して八雲神社、諏訪神社、砲臺址等がある。

【鏡忍寺】

鴨川驛の北十三丁東條村廣場にある。日蓮宗の名刹で、立正大師小松原法難の地として有名である。宗祖日蓮の危難に際し犠特となつた日曉を冥福するため、日隆上人の開基に係るもの、寺號の鏡忍は日曉上人の法號である、附近に掛松寺と云ふがある小松原法難に付て由緒ある寺、日隆上人の開基である。

【天津町】

鴨川天津間二里弱、自動車二〇分東京灣汽船は午後六時靈岸島發、翌午前六時二十分天津着。

天津は前原灣北岸の良港で、市況鴨川に伯仲する活氣を有して居る。小松原法難犠牲者の一人工藤吉隆の居城地で、後糟谷、眞里谷の諸氏茲に居た。日澄寺内がその城址である。町の東端に海水浴場が設けられて居る。

【清澄山】 町の北方一里半にある。徒歩二時間、歸路は一時間半で充分、尙途中

迄自動車を通ずる。標高三八三米、全山鬱蒼たる老杉に蔽はれ、農科大學の演習林になつて居る山中に清澄寺がある、新義真言宗智山派に屬し立正大師得度の寺として、又側の朝日の森は大師が始めて妙法蓮華經の題目を唱えし地として著はれた古刹である。山上に登れば周圍の山峯を壓し、太平洋の碧波眼下に求め、遠く天空に連りて雄大なる風色に接することが出来る。大毎日々兩誌の日本百景に加へられしを見るも絶景であることが知らるゝ。

【小 湊】 天津町より一里半、自動車二〇分、房總線の終點興津からは二里、全三〇分で此地に達する。尙汽船なれば午後六時靈岸島發翌午前七時に着する。小湊は湊村の大字であるが、有名な誕生寺が小湊にあるのでその名の方が通りがよい。

【誕生寺】 小湊の南端、内浦灣に面して日蓮宗の本山誕生寺がある。宗祖日蓮誕生之地として池上、身延と共に全宗信仰の本源をなし、賽者の常に絶ゆることがない。寺内廣豁、清素たる中に祖師堂其他の伽藍が建てられてある。

但し眞の誕生地は南東の蓮華潭と稱する所で貞應元年貫名重忠と云ふ人を父として生誕し、建治二年弟子の日家上人が精舎を建てたのであるが、海嘯に災されて妙の浦に之を移した。然るに其後再度の海嘯により元祿年間現在の地に建立したものだそうなる。

【妙の浦】 誕生寺の南祓崎の沖を妙の浦又は鯛の浦と稱する。もとの誕生寺の地域であるそうだが、漁民は其所を禁漁地として居る爲め無數の鯛が群居し、小舟に棹してその海面に到れば鯛群舷側に浮び來りて餌を求むる狀、まことに壯

観である。誕生寺側から乗合船が出る。

【物見臺】 誕生寺の後丘で、こゝに登れば内浦灣一眸の裡に集まり松ヶ鼻の岬角横る邊り頗る景勝に富んで居る。

小湊から房總線の終點興津に行く途中に山脚海に迫りて斷崖をなし、巨濤奔然として崖下の岩を嘯む絶勝の地がある、『お仙ころがし』といふ。房總の國境は小湊海岸とこのお仙ころがしの間、境川と云ふ細流に依て劃されて居る。

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

房州旅行計畫

以下の表は最少限につめた計畫によるものであるから、この儘用ふるには相當骨の折れることを御承知ありたい。

故に餘祐のある旅行者は適宜この時間割を延長して用ひて戴きたい。

東京より日歸りの旅

第一計畫、

汽車 兩國橋發 前 5時30分 安房北條着 前 9時48分 海水浴及海濱散策、午餐

汽車 安房北條發 前 11時48分 安房鴨川着 後 12時54分

自動車(接續) 安房鴨川發 小湊着 後 2時00分

誕生寺參詣。妙ノ浦舟遊

自動車小湊發 後 5時30分 興津着 後 6時00分
汽車 興津發 後 6時20分

第二計畫

汽車 兩國橋發 前 5時30分 濱金谷着 前 9時00分
 鍋登山、日本寺參詣、午餐
汽車 保田發 後 1時19分 那古船形着 後 1時48分
 船形觀音、那古觀音參詣、
汽車 那古船形發 後 3時38分 安房北條着 後 3時50分
 北條海岸散策
汽車 安房北條發 後 6時37分 兩國橋着 後 10時45分

(遊覽船) 北條發 後 5時00分 靈岸島着 後 9時00分

第三計畫

汽車 兩國橋發 前 7時30分 安房北條着 前 11時47分
(遊覽船) 靈岸島發 前 7時00分 北條着 前 11時00分

以下五様の計畫を示す。

- 1、北條又は館山にて海水浴後汽車又は遊覽船にて歸着。
- 2、北條海岸散策、後午後2時安房北條發列車にて全2時20分千倉着、乗合自動車にて千倉町着、千倉鑛泉一浴後再び自動車により千倉驛に戻り、午後6時13分發、午後10時45分兩國橋着。
- 3、北條驛前より洲崎行自動車に乗り、洲の崎海岸散策、再び北條に戻り北條發 5時の夏季

遊覽船若は安房北條發午後6時37分

列車にて兩國橋へ着。

- 4、北條驛前より布良廻り長尾行自動車に乗り、安房神社參詣、兜岩見物後再び自動車にて北條に戻り3に掲げた時刻發汽車にて歸京。
- 5、北條驛前より白濱行自動車に乗り、野島崎海岸を散策、再び北條驛に戻り、汽車又は汽船にて着京。

第四計畫

- 汽船 龜岸島發 後6時 小湊着 翌前7時
 誕生寺參詣、妙ノ浦見物、朝食
- 自動車 小湊 天津間20分
 清澄登山、清澄寺參詣、午餐

自動車 天津鴨川間20分

汽車 安房鴨川發 後 5時25分 兩國橋着 後10時45分

二日の旅

第一計畫

- 汽車 兩國橋發 前 6時10分 上總興津着 前10時10分
- 自動車小湊行接續、興津小湊間30分
 誕生寺參詣、妙ノ浦舟遊 午餐
- 自動車小湊天津間20分
 清澄登山、清澄寺參詣

自動車天津鴨川間20分

鴨川一泊

汽車 安房鴨川發 前 7時35分 千倉着 前 8時24分

自動車千倉乙濱間30分

乙濱、野島崎海岸散策

自動車白濱北條間1時間半

北條町館山町見物

汽車 安房北條發 後 6時37分 兩國橋着 後10時45分

(遊覽船) 北條發 全 5時00分 鹽岸島着 全 9時00分

第二計畫

汽車 兩國橋發 前 7時30分 濱金谷着 前 10時59分

鋸登山、日本寺參詣、午餐

汽車 保田發 後 3時08分 那古船形着 後 3時38分

船形觀音 那古觀音、鶴ヶ谷八幡參詣、北條町着全所一泊

自動車北條驛前發鹽見着

臥龍松見物、鉈切神社參詣、洲の崎海岸散策、北條町に戻る。

汽車安房北條發兩國橋歸着 (時間省略)

三日の旅

汽車 兩國橋發 前 7時30分 濱金谷着 前 10時59分

鋸登山、日本寺參詣、午餐

汽車 保田發 前 3時08分 那古船形着 後 3時38分

船形観音、那古観音、鶴ヶ谷八幡参詣、北條町着全所一泊

自動車北條驛前發 鹽見着

臥龍松見物、鉈切神社参詣、洲の崎海岸散策、北條町に戻る

自動車北條驛前發安房神社前下車

安房神社参詣、布良海岸散策

自動車布良長尾間乗車

野島崎乙濱海岸散策

自動車乙濱千倉間乗車

千倉町一泊

自動車千倉町千倉驛間乗車

汽車 千倉發 前 7時25分 安房鴨川着 前 8時10分

自動車接續鴨川天津間20分

清澄登山、清澄寺参詣、午餐

自動車天津小湊間20分

誕生寺参詣、妙の浦舟遊

自動車小湊興津間30分

汽車 興津發 後 5時02分 兩國橋着 後 8時55分

(全 全 6時20分 全 全 11時30分

東京灣要塞地帯

安房郡の西部は全部要塞地帯になつて居る。故に撮影、寫生等となすに要塞司令部の許可を要する。

昭和二年七月二十日 印刷
全 年七月二十五日 發行
昭和三年九月二十五日 改版發行

郡別旅行案内 千葉縣安房郡奥附

定價 金 參 拾 錢

著 者 宮 音 松

發行印刷者 中 島 吉 三 郎

東京市外西巢鴨町新田八七六



發行所 郡別旅行案内社

東京市外西巢鴨町新田八七六
電話 穴塚 二六二番
振替 東京 一四八九五番

既刊

郡別旅行案内
千葉縣
長生郡・夷隅郡

定價金參拾錢

送料二部迄貳錢

本書は上總東海岸に面した二郡を括めて一冊としたもの、房總線沿線では、本納驛以南の地即ち本納、茂原、一宮、太東、大原、御宿、勝浦、興津の各驛附近を包括し、内地に入つて藤南、國吉、大多喜の諸邑及び、その近傍の史蹟名勝を詳述して讀者に供したものである。

山紫水明の地として夙に海水浴、避暑、避寒の目的を以て都士の杖を曳くもの夥しいものがあること屢々する迄もないが鎌倉時代以後の史蹟、郡内到る處に散在するのは特に本書を携へてこの地を訪れる士の興趣を深うするものである。

重版

郡別旅行案内
群馬郡・碓氷郡
群馬縣

定價金 參拾錢
送料 二部迄 貳錢

本縣で最も古くから皇化の及された地は群馬郡である。従て郡内には上代の史蹟が夥しい、この方面には特に時日を費して巡歴した。高原的情緒豊かな榛名連山、その中腹に滾々湧出する伊香保温泉など、群馬郡には著はれた勝地に富むと共に、我樂目嬉の如き靜寂な温泉郷をもつ。上信國境の險阻碓氷嶺を中心に、名勝を探るも興多いことであらう。そこには日本武尊の御事蹟を始め、避暑に、觀楓に、山越に、曳杖すべき地がなかく多い。妙義の登山歸りに必ず浴すべき磯部の湯、碓氷の山奥に湧く霧積など、碓氷郡も亦温泉に恵まれて居る。高崎市は地勢上群馬郡中に録述した。

最新刊

史蹟
名勝
靜岡縣案内

定價金 五拾錢
送料金 四錢

三六型本裝釘全縣明細圖繪一 アート寫真口繪一〇頁 本文一五三頁

北境に靈峰富士があり、駿河灣その前に展がつて、靜浦、田子の浦、清見潟三保の松原等の明麗な風光をそこに描き出して居る。濱名湖、猪鼻湖など落ち着いた風景があれば、亦伊豆の南岸に於ける如き男性的な勝地がある。竹之下、手越ヶ原、三方ヶ原、久能山や、伊豆の韮山、蛭ヶ小島等に往時を偲ぶも亦與多いことであらふ。殊に伊豆の温泉郷は、近時自動車交通の發達と共に漸く世人の視聽を集むるに至つた。新らしい取材と、自から踏査した誤りのない案内書を携へて送迎に違まない本縣の史蹟名勝を拔涉せられたい

近刊（發行豫定 十月中旬）

郡別旅行案内
神奈川縣

足柄下郡・足柄上郡

定價金參拾錢 送料二部迄貳錢

箱根と云へばそれを解説する迄もなく、あまりに知れ過ぎた勝地であり、温泉郷である。

その知れ過ぎた土地の中に、之はまだ人口に膾炙せられぬと信ずる事柄を採り交せて、内容を飾らうと、今折角筆を運んで居る。

足柄下郡には箱根の外に湯ヶ原温泉がある。その他鎌倉期以後の史蹟、石橋山、眞鶴、小田原があり、上郡に道了様で有名な最乗寺や、大正震災后名高くなつた丹澤山などがある。

2
562

終

